



「ありがとう東海道新幹線 300系」
新横浜駅にて 2012年2月24日撮影

【2012年5月号】

▼FMやまびこ番外編	小林 信篤	2
△ノートの映画大好き！	ノートン	5
▼里からのたより	塩谷 芳彦	6
△よこはま三歩番外編	木村 重之	8
▼本棚から	西尾 紀子	11
△自閉症児の親も一日にしてならず	momoe	12

◆よこはま三歩 (米澤 巧美) . . . 7	◇疑問符だらけの現場用語集 . . . 10
◇コラム (森田 あかね) . . . 15	◆後援会・編集後記 . . . 16



理解までには、まだまだはるかな道のり

横浜市発達障害者支援センター センター長 小林信篤

私の父は、スポーツ紙を愛読しており、毎朝早起きして、朝の運動である散歩をし
がてらコンビニでスポーツ紙を購入してきます。先日もいつものように購入して戻り、
読み始めたところ、こんな記事が載っていたと、わざわざ切り抜いて私のところに持
ってきてくれました。

その記事とは、下記に示したものです。これは、大阪市長である橋下さんが率いる
「大阪維新の会」が大阪市議会へ提出する「家庭教育支援条例（案）」の中で取り上げ

られているものです。

この件では、よこはま発達クリニックの内山登紀夫先生も Facebook でこの
件を紹介され、「この『伝統的子育て』によって『予防、防止できる』という『根
拠』は何なんでしょう？」と言われていま
す。

この条例案は前文に始まり、第1章「総
則」から、第5章「親の学び・育ち支援
体制の整備」まで、23条からなる内容
となっています。

左記の記事は、第4章「発達障害、虐
待等の予防・防止」を取り上げてのもの
ですが、問題なのは第4章ばかりではあ
りません。(目的)第1条の2項には、「保
育、家庭教育の観点から、発達障害、虐
待等の予防・防止に向けた施策を定める
こと」と謳っていますし、最後の第23
条の1項でも、「首長直轄の部局として
『家庭教育推進本部』を設置し、親とし
ての学び、親になるための学び、発達障
害の予防、防止に関する『家庭教育推進
計画』を策定する」と謳われているので
す。

ツイッターで釈明
橋下大阪市長(42)が率いる大阪維新の会大阪府議団が議会提出する方針の条例案の発達障害をめぐって規定に当事者らが強く反発、橋下市長が3日から4日にかけて短文投稿サイト「ツイッター」で火消しに躍起となっている。

「愛情不足で発達障害」
維新条例案の記載に批判噴出で…

橋下 大阪市長
火消しに躍起

条例案は「家庭教育支援条例案」などの文言も並んだ。自身も発達障害があるNPO法人「発達障害をもつ大人の会」(大阪市の広野ゆい代表39)は「発達障害と虐待など同列に扱われ、人権侵害だ」と批判した。ツイッターで「発達障害が原因で予防、防止できるとする発想も許されな」と位置付け、愛情さえ注

「科学的ではない」「決定権はありません」
「科学的ではない」「決定権はありません」
「科学的ではない」「決定権はありません」

<5月5日付 サンケイスポーツより>

折角ですから、第4章の全文をご紹介します。以下の通りです。

第4章（発達障害、虐待等の予防・防止）

（発達障害、虐待等の予防・防止の基本）

第15条 乳幼児期の愛着形成の不足が軽度発達障害またはそれに似た症状を誘発する大きな要因であると指摘され、また、それが虐待、非行、不登校、引きこもり等に深く関与していることに鑑み、その予防・防止をはかる

（保護者、保育関係者等への情報提供、啓発）

第16条 予防、早期発見、早期支援の重要性について、保護者、保育関係者およびこれから親になる人にあらゆる機会を通じて情報提供し、啓発する

（発達障害課の創設）

第17条

1 項 発達障害の予防、改善のための施策は、保育・教育・福祉・医療等の部局間の垣根を廃して推進されなければならない

2 項 前1項の目的達成のために、「発達障害課」を創設し、各部局が連携した「発達支援プロジェクト」を立ち上げる

（伝統的子育ての推進）

第18条 わが国の伝統的子育てによって発達障害は予防、防止できるものであり、こうした子育ての知恵を学習する機会を親およびこれから親になる人に提供する

（学際的プロジェクトの推進）

第19条 保育・教育・福祉・医療等にわたる、発達障害を予防、防止する学際的研究を支援するとともに、各現場での実践的な取り組みを支援し、また、その結果を公表することによって、いっそう有効な予防、防止策の確立を期す

「発達障害」はその人の状態を表す言葉であり、「虐待」は行為を示す言葉で、これら自体併記する言葉ではないように思いますし、記事の中で広野さんが言うとおり、人権侵害も甚だしいと思います。

確かに、第17条でいう「発達障害課」の創設は必要と言えるかもしれませんが。保育・教育・福祉・医療等の部局間の垣根の撤廃は、これまでも多くの方が望み、口にしていますが、なかなか実現してこなかった現状があるため、現行の組織のまま連携を叫んだところで絵に描いた餅で終わるのは火を見るより明らかと言えます。しかし、推進しようとしている人たちの根本の理解や、目標や目的がこのように誤っているのでは、せっかくの戦略や戦術は意味を持たないこととなります。

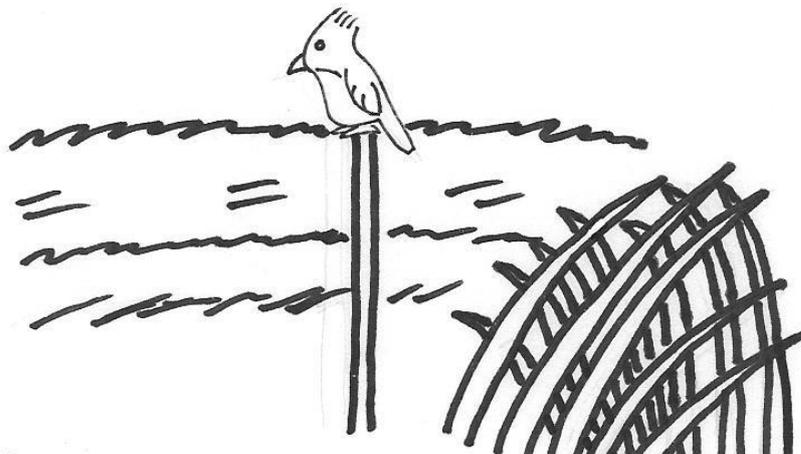
橋下さんは、ツイッターで、「科学的でない」とか、「決定権はありません」と言っているそうですが、科学的でないと認識しているならば、条例の文言はこのようにならなかったでしょうし、市議団とはいえ、自分が率いている維新の会が提出する条例の内容なのですから、決定権がないとしても明らかな事実誤認があれば、訂正を指示するのが筋だと思います。実は、橋下さん自身が、発達障害について、正しく認識できていないがために口がはさめなかったに過ぎないと勘ぐられても仕方がないところと言えるのではないのでしょうか。将来この国を動かしていく人かもしれないといわれている人の一人かと思うと残念です。

また、この原案をまとめた市議は、「誤解を与えて申し訳ない」と陳謝しているというのですが、発達障害について知らない一般の人に対しては、確かに誤解をさせる内容となっているのですから当然なことです。しかし、これだけでは十分ではありません。十分ではないというよりは、陳謝すべき相手を間違えているといわざるを得ません。つまり、当事者やその家族に対しては、全く何のコメントも発せられていないのです。これでは配慮を欠いているのは明らかです。

加えて、この陳謝の内容では、認識には間違いがあることには触れられていません。これはもっと大きな問題です。表現の問題ではないわけです。誤解を与えた以上に、誤解をしていることについてのコメントがないということは、原案修正も含めた検討をしたところで期待できる内容になるとは思えません。

ところで、この「家庭教育支援条例（案）」について取り上げているマスコミは、当初、私の知る限りでは5社でしたが、このスポーツ紙以外は、いずれも、児童虐待や親の教育、家庭教育の部分（首をかしげるような突っ込みどころは多いのですが、今回は割愛します。）に着目し、友好的に伝えていました。発達障害については「発達障害課の創設」以外は、全く触れていません。こうしたマスコミの姿勢もいかがなものでしょうか。と、思っていたら、当事者や家族からの反響でこの条例案を5月7日の段階で撤廃したそうです。本当に実情を知ってのことなのか、クレームの大きさに驚いてのことなのかはわかりません。これで一件落着くと考えて本当に良いのでしょうか。

世界自閉症啓発デイが設定されたり、当事者が書いた本が出版されたり、当事者を主人公としたドラマが作られている中で、相変わらず、こうした誤解がはびこっているのが現実なのだということを改めて強く思い知らされました。同時に、私たちやまびこの里の役割としての啓発活動の在り方について、改めて考えていかなければならないと強く感じさせられました。



ノートの《映画、大好き!》



「アーティスト」(2012年)

4月に入り、急激に暖かくなってきました。春です。今年は桜がきれいでしたね。4月の初めにゆっくりと花見をする機会が持てました。ポカポカ陽気の中、気の合う仲間と花見。みんなで持ち寄った手料理を食べ、お酒を飲み、近況報告などおしゃべりにも花が咲きました。ゆっくりと流れる時間を楽しむことができました。仕事では、年度末～年度初めは何かとバタバタするものですが、心に余裕を持てるように心がけなければいい仕事はできませんよね。そんなこんなでゆったりとビールを飲もう!と今日も気合を入れて飲んでくれているノートンです。

さて、今年も2月に日米ともにアカデミー賞の発表がありました。日本アカデミーでは、「八日目の蟬」がほとんどの賞を独占していましたね。とても心を打つ作品でしたので、納得のいく結果でした。そして、本家アカデミーで作品賞に輝いたのは「アーティスト」でした。この映画、舞台はハリウッドですが、フランス映画なんですね。とても興味深く、先日映画館で鑑賞してきました。ということで、今回は「アーティスト」を紹介します。

では簡単にストーリーを...

1927年、ハリウッドサイレント映画界のスター、ジョージ・バレンティン(ジャン・デュジャルダン)が出演する映画は、いつも観客で賑わっていた。そして、ジョージに憧れるペピー・ミラー(ベレニス・ベジョ)は、撮影所のエキストラの仕事を通してジョージから色々

とアドバイスを受け、徐々にスターへの道を歩み始める。1929年、映画界はそれまでのサイレント映画からトーキー映画への転換期を迎えていた。ジョージはサイレントこそ芸術と信じ、それまで所属していた映画会社と決別して独立路線を歩む。しかし、彼の製作したサイレント映画には観客が集まらず、彼は破産してしまう。そんな中、ペピーはトーキー映画の波に乗り、飛ぶ鳥を落とす勢いでスターの座に上りつめていった。過去の栄光を捨てきれないジョージ。果たして、彼に再起のチャンスは訪れるのか...

白黒で無声映画です。この映画を観て私が感じたのは、余計なモノはいらないんだということでした。声がなくともいいんです。声がない方が、より効果的にBGMを使えたり、無音という状態を見せることで、逆にストーリーの情感を際立たせることができるんですね。主演の2人の演技も見事でした。ジョージという1人の役者の人生を描き、ジョージとペピーのラブストーリーでもありますが、2人のラブシーンでは、このまま時間が止まってしまえばいいのにと感じるほど入り込んでしまいました。映画を観ていて、ここまで感じたのは初めてです。この映画がハリウッド映画ではなく、フランス映画というのが今のハリウッドの勢いのなさを象徴していますが...。とにかく、心に残る映画であること間違いなしです。ぜひ、ご鑑賞くださいませ。

新年度を迎えるにあたって所感の一端を申し上げます

田
ま
か
の
た
ら
り

私は昨年、法人をさらに強化したいと申し上げました。そのため、現在の支援の体制をはじめ、倫理、法令遵守、教育・研修などを全て洗いなおし、3年後をめどに、自閉症・発達障害の人たちへの支援において中心的役割を担えるに足る内部統制の確立を宣言したい旨を申しました。今、少し力みすぎたかな、と思っています。しかし、これから先の社会福祉法人のありようを考えると、この法人の優越性、これまで培ってきた存在感を今後も示すことができるか、今その基盤をしっかりとしたものにしなければ、次の対応は難しいと感じています。

法人は、自閉症・発達障害の人たちが「施設から地域へ」を実現するための療育の場、その実践の場であり、その中心的担い手として存在意義がある。と考えます。これは法人設立の原点でもあります。

福祉制度の目的はきわめて理想形ではありますが、現実として生理的に自己責任を負えない障害者が存在しています。現実においていわゆる重度の人たちへの支援において法人への期待は大きく、また、支援へのウエイトは大きくなってきています。

法人は現場実践力を高めることによって、この分野で他のなしえない領域への技能を展開し、「安心」に向けた支援の場として機能するとともに、発達障害の人たちへの支援ニーズの高まりにも留意し、自閉症・発達障害の全てに対応できる総合的な支援技術を持つ高度な技能集団を目指したい、と願っています。そしてこの法人は、実践を通じ、自閉症・発達障害の理解を社会へ普及する役割を担っています。

目的・理念が現場に反映されなければ意味がありません。現実に関がらなければ何も進みません。現場の状況からは、それが機能する十分な余裕があるとは言い難い厳しい状況にあるかと思えます。しかし、私たちは、「日々利用者が怪我なく、病气なく、楽しく過ごしておればそれでよい」 それだけを保証することではないはずで

利用者の生活は、受身ではなく、人との関わり、役割と自信、習熟の機会、周囲の人を観察する力など、主体的な生活へつなげる自立生活のあり方を模索していくことにあります。あらためて設立の原点の意味するところを噛み締めてみたいと思います。

このたび、今後の法人運営の足場固めの一環として、議論・提言の場(委員会)を設けました。研修、倫理、ケアホームについては前年度に引き続き充実した議論を期待します。人材の重要なことは論を待ちません。倫理は福祉の仕事の根幹に関わる問題を

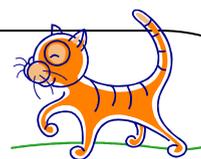
含んでいます。ケアホームは現状の検証を踏まえ、将来のケアホームのあり方を模索する課題が残されています。

そして新たな事業企画については、これから10年先の障害者をめぐる環境はどのような状況かを見通し、法人の強み、弱みをあらためて検証し、法人の理念に照らし事業のあり方を、人材の養成及びその場の観点から幅広く検討することになっています。法人の歴史は、実際に現場に携わる職員の発意と挑戦の軌跡でもあります。このことは法人の大きな特徴であり、力の源であると思っています。その議論がより充実したものになることを期待して次のキーワードを掲げたいと思います。

知識共有、全体概観、自在連結、仮説実験

理事長 塩谷 芳彦

よこはま三歩



ワークアシストやまびこの米澤です。引っ越し魔である自分は、東急沿線の綱島、日吉、元住吉をこの10年間転々としています。1年間のブランクがあるものの、住み慣れた土地に帰ってくるのができたことをうれしく思っています。

今回このコーナーでご紹介するのは、港北区下田町から日吉へと続く「松の川緑道」です。この道は、歴史のある道だそうで鎌倉時代からある古い道なのだそうです。うっそうとした野草をかき分けながら、土の道を踏みしめ、考え事をしながら（実際は何も考えていないのですが）歩くことが自分の最高のリラクゼーションの一つです。その散歩コースは、下田小学校脇の巨大な鳥（と思われる）のオブジェを横目に、桜並木を歩いていきます。次に、大きな野球場で大学野球の練習風景を見学しつつ、今度は大トカゲ（と思われる）オブジェに遭遇します。そして最後にアメリカザリガニのいる小川でザリガニを観察しながら、日吉の地区センターで淹れたてのお茶を飲むのがおすすめのコースです。みなさんも日吉にぜひお越しの際は、松の川緑道でお会いしましょう。

ワークアシストやまびこ 米澤巧美

よこはま三步 番外編



出会えてうれしい素敵なお店

「amam kitchen (アマム キッチン)」

「café white dining (カフェ ホワイト ダイニング)」

東やまたレジデンス 木村重之

街中に控えめにたたずむお店。気がつかないで通り過ぎてしまいそうだけれど、一度食べてみると「近くにこんなおいしいお店があったんだ・・・」とちょっと得した気分になれるお店。

最近、こんなお店に出会ったことってありますか？

今回、紹介するお店は横浜の神奈川区にある、出会えてうれしい洋菓子のお店です。

お店の名前は「amam kitchen (アマム キッチン)」といって、インターネットでも美味しいお店でクチコミされるほど、いろいろな年代の人から愛されている評判のお店ですが、実はここの菓子職人たちは、皆さん「NPO法人ワークステーション」に通っていらっしゃる自閉症の障害をお持ちの利用者さんたちなのです。

このお菓子は機械を使わず、焼き上げ以外は手作りで、品質のチェックと焼き加減以外は全て利用者さんたちが行っています。何十種類もあるレシピを6名の利用者さんそれぞれに合った工程に分け、わかり易く手順書を使うことで次々においしいお菓子が生まれてきます。

出来立てを食べてもらいたい気持ちから一度に多くは作らずお店の在庫を見ながらこまめに作っているそうです。

利用者さんたちが作っている様子は、店舗からガラス越しに見ることができます。

「amam kitchen」の洋菓子はどれもみな美味しく、焼き菓子のひとつである「ハートフィナンシェ」は、昨年秋に行われた、障害者のパン・菓子コンテスト「第5回チャレンジドカップ」で64チーム参加のなか、初参加ながら焼き菓子部門で銀賞を受賞したほどです。このコンテストはパン・菓子業界の第一線で活躍されている方々が審査をされるなど本格的なコンテストとして知られており、お店には「ハートフィナンシェ」の隣に賞状と銀メダルが誇らしげに輝いています。

「amam kitchen」には「ハートフィナンシェ」のような焼き菓子（クッキー・パウンドケーキ・マフィンなど）が約20種類ほどあり、手作りプリンは季節ものをあわせると10種類ほどあります。

受賞した「ハートフィナンシェ」などの焼き菓子もどれも美味しいのですが、実は手作りプリンの美味しいお店としても、地元の人たちから愛されているのです。

ここのプリンは神戸の有名な洋菓子店（神戸・芦屋のお嬢様の御用達）のレシピをベースにその味を大切にしながら季節ごとにアレンジして作られています。（もちろんスタンダードなカスタードプリンは年間通しての人気商品です）

お値段のほうは焼き菓子がすべて100円、プリンは150円~となっており、この味でこの値段というのはかなりリーズナブルで、ちょっと気の利いたお土産にも最適だと思います。

また、焼き菓子はギフト用として全国発送できますので贈り物にもお勧めです。

さらに、近くにある同じワークステーションの「café white dining (カフェ ホワイト ダイニング)」という喫茶店でも美味しいコーヒーと一緒に洋菓子が召し上がれます。

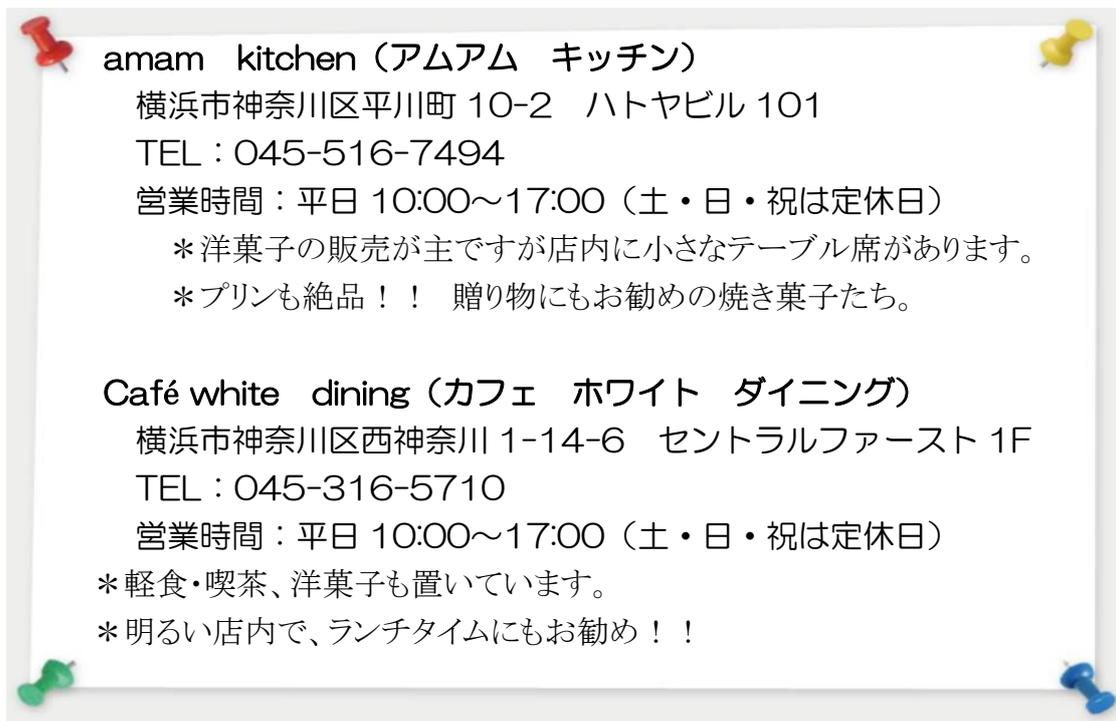
この「カフェ ホワイト ダイニング」では軽食もメニューにあるので、ランチタイムには近所のお勤めの方たちの食事の場としても活躍しています。

どちらのお店も、東急東白楽駅・JR東神奈川駅・京急仲木戸駅から徒歩圏内です。残念ながら平日のみの営業ですが、是非一度、訪ねてみてください。

2件とも途中下車してでも訪ねてみる価値はじゅうぶんの素敵なお店です。

道に迷っても大丈夫、電話でたずねると、これまた素敵な笑顔の職員が丁寧に案内してくれますよ！！

是非、皆さんのお気に入りのお店のひとつに加えてみてはいかが！？



amam kitchen (アマム キッチン)
横浜市神奈川区平川町 10-2 ハトヤビル 101
TEL : 045-516-7494
営業時間：平日 10:00~17:00 (土・日・祝は定休日)
* 洋菓子の販売が主ですが店内に小さなテーブル席があります。
* プリンも絶品！！ 贈り物にもお勧めの焼き菓子たち。

Café white dining (カフェ ホワイト ダイニング)
横浜市神奈川区西神奈川 1-14-6 セントラルファースト 1F
TEL : 045-316-5710
営業時間：平日 10:00~17:00 (土・日・祝は定休日)
* 軽食・喫茶、洋菓子も置いています。
* 明るい店内で、ランチタイムにもお勧め！！



～その43～ 構造化再考⑨
高機能自閉症の人への構造化支援

構造化の話を取り上げると、「それは知的障害が重度の自閉症の話で、高機能自閉症やアスペルガータイプの人たちには関係ない」と言われたり、「そんなことより、ソーシャルスキルトレーニングや感情コントロールのプログラムを紹介してほしい」と問い合わせを受けたりすることがままあります。おそらく、構造化というものを、教室を衝立で物理的に仕切ることやスケジュールに絵カードを使うことをイメージしているのでしょう。

自閉症の特性や学習スタイルを考えれば、自閉症の人には(どのような知的レベルであれ)構造化された支援は必須だと私は考えます。自閉症の人向けのソーシャルスキルトレーニングや感情コントロールのプログラムでも、構造化のアイデアは必要です(そうしないと、参加者に無用な混乱や不安を招いてしまいます)。あるいは、最近の優れた自閉症向けの支援技法(たとえば、PECS やコミック会話、CAT-Kit)を見ると、どれも構造化のアイデアがふんだんに取り入れられているとも思います。

高機能自閉症やアスペルガータイプの人たちへの構造化支援とは具体的にどのようなものでしょうか。私が実践場面で取り入れているアイデアをいくつか挙げてみます。

- ①相談場面では、最初に、本人と今日相談したい項目をリストアップしておき、項目にそって1つずつ話をするチェックオフのシステムを取り入れる。そうすることで、今この話題について話をしているのか具体的になり、スムーズに相談をこなしていくことができる。相談で確認したことや積み残したテーマについても、紙に書きだし、本人と確認できるようにする。
- ②自分の部屋や職場・教室を整理整頓し、本人が居心地よく過ごしやすいするために、レイアウト変更をしたり収納ボックスやレターケースを活用したりするのを手伝う。種類や用途毎に引出しを使い、すべて写真や文字のラベルを貼るようにする。
- ③本人専用のスケジュール帳やカレンダーを用意し、時間の管理や計画的に物事を遂行することを意識してもらう。アラーム付の時計やスマートフォン等も積極的に活用する。
- ④自己理解や感情コントロールのセッションでも視覚的な提示を心がける。例えば、セッション全体の予定表、自己理解を進めるための Q&A やチェックリスト、表情の絵カードなどを使う。

自閉症支援において、「よく話ができるから問題ない」とか「知的レベルが高いから絵や写真で伝えなくてもよい」と捉えているなら、それは支援者の一方的な思い込みです。高機能自閉症の人たちがいかに言葉の使い方や認知面で苦労しているか、たとえば最近できた啓発用DVD『自閉症の人が見ている世界』(朝日新聞厚生文化事業団発行)を観ていただければ、よくわかると思います。高機能自閉症の人たちは、ある程度自分の体験や思いを言語化することができます。彼らの話を丁寧に聞くことから、支援は始まります。

<横浜やまびこの里専門員 自閉症 e サービス代表 中山清司>



『アウン・サン・スーチー 戦う気品』

三上 義一 著 ランダムハウス講談社文庫

インドや中国などの大国や、バングラディッシュ、ラオス、タイと国境を接し、日本の面積の約1.8倍の国土に、およそ6,200万の人々が息づくミャンマー連邦共和国。国民の90%が仏教徒で、1989年までは国名を‘ビルマ’とし、日本でも市川崑監督によって映画化された『ビルマの豎琴』は有名です。

今年4月1日のミャンマー連邦議会補欠選挙で初当選した民主化運動指導者スーチー氏(66歳)。同氏の半生を描いたこの本は、1991年(氏が自宅軟禁中にノーベル賞を受賞した年)に初めて出版され、2008年3月までのおよそ17年間の出来事を網羅して新装版として出版されました。

2007年9月27日ミャンマーのヤンゴンで軍事政権に対する僧侶・市民の反政府デモを取材中、軍兵士に至近距離から銃撃された映像ジャーナリスト、長井健司氏のことは、マンやま愛読者の皆様も記憶に新しいと思います。

序章では「それぞれの戦い」というテーマでその当時の情勢がリアルに描かれています。この反政府デモの制圧後、国際批判が高まり、それをかわそうと当時の政権が許可した国連事務総長のミャンマー訪問と氏との面会が、皮肉にも世界に向けて氏の存在をアピールする大きなきっかけとなりました。

いつものようにロンジー(伝統的な巻きスカート)に襟なしのブラウス姿、すでに還暦を過ぎ、長年囚われの身でありながら凜と背筋を伸ばした氏の姿に、国民のみならず世界の人々が心を奪われたのは言うまでもありません。

氏の著書『恐怖からの自由』に“grace under pressure”という言葉があり、意味としては、‘人は往々にして逆境に直面すると、慌てたり、憤慨したり、パニックに陥るなどして己を見失うが、そのような時にこそ、その人の気品や品格が試される’…だからプレッシャーを跳ねのけ、自らの品位を保てという戒めであり、おのずからそれを実行しようとする姿に周りの人々は感化されるのではないのでしょうか。(井上陽水が創ったイメージソングもあるそうです)

なぜ彼女が、そのような資質を持ち合わせたのか…生い立ちは…!?

この本を読むと深く知ることができます。日本との関係も興味深いですよ!

★今年度、このコーナーでは、‘新しい風’を入れたいと思います。

現在3名の方に執筆依頼をしていますので…乞うご期待!! (西尾紀子)

自閉症児の親も

一日にしてならず。

★momoeさん紹介★

知的障害のある人の地域生活支援をする特定非営利活動法人の理事です。首都圏通勤圏にある某市に夫と夫の母親(要支援2)、専門学校1年の長男と所属法人で新規に設立した作業所3年目・21歳で知的障害と自閉症がある(療育手帳で最重度、障害程度区分6)の次男と暮らしています。

ペンネームは
momoe



「親は当事者じゃない」? の巻

1月19日 一緒に活動していた、知的障害のある息子さんのために頑張ってくれた先輩お母さんが脳血管障害の後遺症のため高齢者施設で過ごされている。何回か施設を替わってきたが、そのたびに「この施設の理念は?」と聞いているとのこと。今いる施設でもそうたすねたら、「よくぞ聞いてくれました、よそはほかの業者に出しているところが多いですが、うちはほとんどを自分たちで整えています!」と力強く答えた、と大笑いしていらした。

わかります? 「理念」と「リネン」。

1月29日 夫が次男の後頭部と前頭部に白髪が1本ずつあるのを見つける。そのうち前頭部にあるのがとても目立つので、と言って抜く。(記念に? 私の手帳に貼る)

1月30日 「仕分け」にかけられた市単の事業、「見直し」となったので当事者からも意見を聞くという会を障害福祉課が何回か開いている。もちろん私たちは、当事者の生活実態を当事者が伝えることなく開かれた「仕分け」にたいして配慮が足りないと抗議し、しかし順番は逆になったものの、財政が厳しい中で何を優先順位と考えるべきかしっかり伝えるチャンスでもあると前向きにとらえようとしていた。

そのためにこの事業を存続させたいのか、それともこの事業を見直す代わりに今ない制度を創設するために使いたいのか、アンケートを取ろうという方向を考えていた。他の施策に関する会ではお見かけしたことない、腎臓機能障害で透析を受けている会の方がこの会に参加している。もちろんこの方は「障害」のある当事者であることは間違いないが、私たち「親」や「支援者」は「当事者ではない」と言い、「仕分け」は無効だからこんな会を開かず「見直し」を撤回しろ、ここに参加するのは「行政に利用されているだけ」だ、と毎回(大きな声で)発言される。そのたび私たちが上記の

様な考え方でニーズを集めるよい機会にしましょうよ、と言っても納得されず、毎回そのやりとりで終始している。

2月7日 4か月ごとの歯科定期検診。今回も虫歯の進行はなし、といってもらえる。

2月8日 作業所から職員と一緒に健康診断を受けに行く。昨年度までは私在家から連れていったのだが、今回は作業所から近くの在宅医療をしている個人病院で。私と行く時は採血も何の抵抗もなくできていたので、特に心配をしていなかったのだが、帰ってから連絡帳を見ると針を刺すまで逡巡し何度も仕切り直したとのこと。初めての場所で今まで一緒に行ったことのない人と、はまだまだすんなりとはいかないのですね。(あたりまえじゃ!!←自己つつこみ)

2月10日 毎月2・4週の金曜日は資源回収。新聞を縛った重たい袋、紙箱、段ボールなどを集積所まで運ぶのは次男の仕事。いつもは私も玄関に出て次男が1つ運んで行ったら、名前を呼んで家に呼び戻し、戻ってきた次男に次はこれ、その次はこれ、と持たせていたのだが、この日から次男は私に「お前はここにいる」と2階にとどめ、一人でせっせと何往復かして全部運んだ。

2月14日 飼っているセキセイインコが高齢になって、左足の握力がなくなり腫れて止まり木をつかめなくなっている。何度も滑り落ちそうになっては羽ばたいて体勢を整えるため、そのたび羽毛が飛んで周りを汚している。次男はそれが嫌なので、バスタオルの古いものをかけるのだが、いいかげんでどこかがふさがれずにいた。床に置かず二つ折りにする方法を何度か教えて、この日からはちゃんと二つ折りにしてきれいにかけることができるようになった。



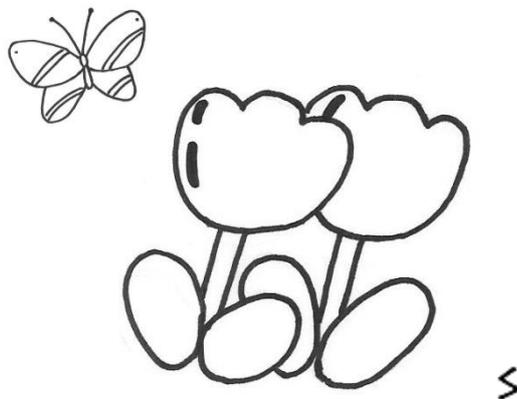
2月16日～ ここ何年か春から夏になるときはハイテンションの波が来ているが、今年は冬から春にかけても何度かぴょんぴょん飛び+不眠の波が来ている。この日から第一波。作業所でも作業中、昼食時も飛び跳ね続け、大汗をかいて着替える。しかも3日寝ないので20日不安を和らげる薬を頓服で入れる。24日から26日は短期入所だったので、就寝前に飲ませてもらうよう連絡袋に入れる。

3月3日 プールの訓練会の余暇で新江ノ島水族館に行く。昼食の場所で集合した後は自由見学、解散。相変わらずショーのほかの展示は見ないので時間が余り、ついでに江ノ島を一周する。天気が良かったし、神社は縁結びで有名なようすごい混雑。突端までは混雑に合わせてゆっくり歩き、帰りは生活道路をほぼ走る速さで歩いて戻る。1万7千歩。また、江ノ島までの行きはJR+小田急、帰りはモノレール+JRと乗り鉄も楽しみ、さすがにこの日は夜も早く寝る。

3月7日 ハイテンションの波第二波。10日・13日頓服入れる。19日寝るようになり、20日は作業所から帰ってきてからも寝る。

4月2日 第三波。10日落ち着く。

原因はいくつか考えられる。基本的には天候（気圧？）が安定しないこと、があると思うが。加えれば、昨年義父が亡くなって今年は一周年忌をしたのでその準備（片づけ大掃除、家人が電話ばかりしている）や当日のあれこれ（お彼岸なので墓地の行き帰りの混雑、客が来る、会食など）、台風並みの低気圧の影響、新年度で作業所の職員が一部変わった、（学校は3年で変わったのに）3年過ぎたのに行く場所が変わらない、などなど。他にもあるか？



ホームページ☆
ご覧下さい！



— 自閉症者の地域生活を援助する —
社会福祉法人
横浜やまびこの里
<http://www.yamabikonosato.jp/index.php>

クリック！！

～コラム～

こんにちは！始めまして、4月から「東やまた工房」で支援員として職員になりました、森田あかねと申します。よろしくお願ひします！！職員になり、引き継ぎや覚えること、学ぶべきことが沢山あり毎日があっという間に過ぎてしまいます。

高校、大学生活の中でいくつかアルバイトをしておりまして、その日々のアルバイト経験から「出来る大人」という定義を個人的に見出して来たので紹介します！

①メモをとる ②振り返る時間を設ける ③挑戦する ④失敗する勇気を持つ ⑤なぜ？を常に見つける ⑥感謝の気持ちを常に持つ

以上挙げたものが、私の考える出来る大人の定義です。①、②、③は社会人として当たり前だと思う事ですが、その当たり前の事を継続してこそが出来る大人に繋がると思うのです。失敗は、次に成功する本です。疑問を持つ事で吸収するものが常に増えます。感謝をすることで前向きに、穏やかに物事を捉えられます。

職員になって約半月・・・「出来る大人」には私自身、まだまだ道のりがあります。近い将来、理想となる大人になる為に努力を続け、試行錯誤し、成長を自分自身楽しみながら始まったばかりの大人への一歩を踏み出していきます！今後ともよろしくお願ひします！！

東やまた工房 森田あかね

△▼横浜やまびこの里後援会▼△

横浜市内で自閉症という障害を持つ人たちが地域で生活するためのサービスを、一つずつ作り出していく活動をしている『社会福祉法人横浜やまびこの里』の活動のバックアップを目的としています。

入会された方には「マンスリーやまた」「後援会報」をお届けします(郵送)

会員種別	個人会員	法人会員
会費	1口 3,000円/年	1口 10,000円/年
入会時期 (定時入会)	7月または1月	
会費納入方法	(ア)7月入会者 7月～12月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の7月に納入し、以後毎年7月となります。 (イ)1月入会者 1月～6月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の1月に納入し、以後毎年1月となります。	
振込口座 (郵便振替)	横浜やまびこの里後援会 <口座番号> 00240-3-76163	

★後援会のお申し込み・お問い合わせ★

横浜やまびこの里 後援会事務局

TEL045(591)2728

～編集後記～

やっと5月反攻の芽が出てきた感のあるDeNAベイスターズだが、ファンサービスの一環で、「全額返金!?アツいぜ!チケット」なるチケットを発売していて、「客の満足度」によって代金の返還が受けられるシステムだそうだ。確かに、ノーヒットノーランなんてされた日には「金返せバカヤロー」くらいは叫びたいものだが、じゃら勝ちした日にさえ返金を求める人がたくさんいるそうだ。満足よりも損得の方が先立っているようで……。糠喜びで終わらしてくれるな!頑張れDeNAベイスターズ!! (小林信篤)

表紙写真 ペンネーム：国鉄福私鉄道（こくてつふくしてつどう）
 編集 社会福祉法人横浜やまびこの里（編集責任者 小林信篤）
 横浜市都筑区東山田町270番地
 TEL.045-591-2728/FAX.045-591-2768
 法人ホームページ <http://www.yamabikonosato.jp/>

印刷 ワークステーション 横浜市神奈川区西神奈川1-14-6-1F TEL.045-316-5710
 発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄
 厚木市愛甲910-1 コープ野村6-109
 購読料1部 50円（税込み）